

# 2018年度事業計画書(案)

1、運営方針…P1
2、事業概要…P4
A ボランティアセンター…4
B フードバンク宇都宮…5
C 災害ボランティアオールとちぎ…7
D NPO活動推進センター…7
E とちぎコミュニティ基金…9
F 若者自立支援…10
G 県北Vネット…10
3、その他の事業 4、財政・組織運営…P11

## 1. 運営方針

### (1)とちぎVネットをとりまく社会情勢

①幸せ感(The Good Life)のパラダイムシフトが本格化。

「成果を求める」資金の流れの変化。

ここ数年で、非営利部門の民間の資金の流れが急速に変化してきている。マイナス金利政策は、投資先の不在を意味する。また、SDGs(持続可能な開発へのゴール)は全世界的に企業活動が変化していることの代表例である。つまり、幸せ感のパラダイムシフトが本格化していることの表れである。

年間700億円の助成資金が発生する休眠預金の検討会(同法2016成立)は2018年2月に素案を発表した。そこではSIB(Social Impact Bond 社会的インパクト投資)に偏るなど用途の方向性には紆余曲折がかるだろうが、共同募金会+日本財団をはるかに上回る財源が、行政が関与しないかたちで民間非営利部門に流れてくるという意味では、非常に大きな出来事である。

底流にはインパクト(成果)を求める流れがある。SIBの場合、投資家が「リターン」のみではなく「リターンも成果も」へと指向が変わってきたともいえる。SIBは寄付より資金調達が容易であり、成功モデルの普及には大きな効果を発揮するだろう。課題は「事業の評価」である。伴走支援する中間支援団体(コミュニティ財団等)の役割が重要になる。

また、寄付、融資、投資と市民活動の資金源が多様化している。今後は事業(目的)による資金の使い分けと組み合わせが工夫のしどころである。

※SIB:行政の補助・委託事業を出来高制にするが、同時に受託事業者のリスク回避のため民間の投資で補填する。成果(社会課題の解決)へのこだわりとともに第三者の評価や伴走支援が必要になる。投資銀行の一部や日本財団などが実験的に実施している。

②コミュニティ財団、コレクティブインパクト…「地域の課題を解決する」が今後の潮流

お金を「社会とのコミュニケーション方法」ととらえると、地域の課題を解決するプロジェクトを生み出す、お金と事業と多様な主体(マルチステークホルダー)の束であるコミュニティ財団が具体的な「社会とのコミュニケーション」を実現する機関となる。もはや「NPOの中間支援」は、人・モノ・金・を行政とNPOにつなぐ中間であることには意味はなく、営利、非営利も関係なく地域の課題を解決するハブであることが求められ、行政の資金でなく皆で出し合った資金で実施されるようになる。

コミュニティ財団であるとちぎコミュニティ基金はこうしたコレクティブ・インパクトを、子どもの貧困

撃退というプロジェクトとして実施した。今後は子どもの貧困のプロジェクトの他にも、複数のプロジェクトを展開し、コミュニティ財団としての基本機能を見せながら、機能の強化を図る必要がある。

## (2)とちぎVネット内部で当面する課題

### ①組織拡大や新事業が、会員増に結びついていない。

この2年間で拠点は増えたが集う人や、会員はあまり増えていない。これは場を使うスタッフ（たち）のキャラクターや応用力によることを示しているとともに、会員への誘導・勧誘をしていないことも一因である。本会の場合、会員をつなぐものは「人」か「活動」である。サービスの対価がない団体であり、寄付の大半は会員であることの認識が、特に職員（中核ボランティア、役員）に希薄である。

### ②人材の育成と採用の枠組み作り

職員の採用が課題である。本会はマルチタスクの働き方で、それぞれに専門性が求められ、関わる人の立場も多様という特殊性がある。当面は一般公募や内部への声かけなどによる人材確保を続けるが、若い人が来ない現状は変わらない。そしてこれは栃木県内のNPO全体に対して言えることでもある。こうしたことから学生などを中心に「場・人」に慣れた人を増やし、そのなかから本会などのNPO連合体に就職していく人を増やす必要がある。本会のみの人材育成では限界がある。

### ③ボランティアと協働する組織の再構築

FBの総合相談支援センター業務は、相談支援職員の採用で困窮者への対応能力が飛躍的に拡大した。しかし、一方でボランティアがチームとして活動するには会議の開催、意思決定、執行、振り返りなどの場面でより高度なマネジメントが必要になっている。困窮者に同行支援する相談支援ボランティアの養成も急務である。職員が一部関与しつつ、原則としてボランティアがFB倉庫業務、食品確保、相談支援ができる協同の体制構築が必要である。

## (3)2018年度の基本方針

### ①とちぎコミュニティ基金の「事業の方法」の普及、コミュニティ財団としてのブランド化。

前期、子どもの貧困撃退円卓会議（子どもSUNSUNプロジェクト）を通じて、多くの人が「やれば社会は変えられる」という実感を作ることに一定程度の成果があった。

今期はさらに「多様な主体の参加」を得て、子どもSUNSUNプロジェクトを推進する（他自治体への波及と宇都宮市内・3地区への深掘り）。同時にとちぎの事業方法（プロジェクトの流れ・意義）を普及し、子どもの貧困以外の地域課題についてもプロジェクトをすすめる。SDGsやゴミ減量などのテーマ設定について検討する。コミュニティ財団としての基本機能と基本的な動き方を普及し、とちぎコミュニティ基金のブランド化を図る。

### ②県北支部の充実・強化

県北支部でも大田原市で子どもの貧困撃退円卓会議を実施し、多様な主体の参加を図る。これにより県北のNPO全体の活性化と、県北支部が県北NPOなどのプラットフォームとなることを促進する。また会員・寄付の拡大を行う。

### ③学生ボランティアの大量育成

子どもSUNSUNプロジェクトでは子ども食堂・無料学習支援ではボランティアの大量育成が必要である。他のNPOと協働して、ラジオの学生パーソナリティや公募の学生を中心にユース・コミュニティ・ワーカーの育成を行う。また総合就職希望学生を中心にNPOへのインターンシップとして、プロボノと寄

付の営業を行う。

④ F B ボランティアの育成とボランティアと協働する組織づくり

F B の総合相談支援センター業務での相談支援ボランティアの育成を行う(休眠社会福祉士の掘り起し、福祉系大学性の実習受け入れ等)。また、F B 倉庫・配達・食品集めなどでのボランティアチームによる自治的運営を促進する。職員とボランティアの協同の体制を構築する。

⑤ 次期中期計画の策定と次期事務局(長)の育成

次期3年間の中期計画を策定する。次期計画では「次の10年の栃木の市民活動を担う人の育成」を踏まえたうえでの本会の10年の事務局体制(人事・組織・事業)を検討しなければならない。そのうえで中期計画を策定する。単なる事業ごとの推進計画ではなく、災害救援、とちコミ、F B の県内での位置づけ・役割、実行体制と、若手スタッフへの職務分掌を併せて次期の推進計画を検討する必要がある。

## 重点事業

(組織)

- ・「大田原・子どもの貧困撃退♡円卓会議」開催…県北Vネットの組織基盤強化・NPOプラットフォーム化
- ・とちきコミュニティ基金の「コミュニティ財団」としてのブランドの確立
- ・次期中期計画、長期計画の策定

(人事)

- ・子どもSUN SUNプロジェクトでの学生ボランティア(ユースコミュニティワーカー)の育成
- ・子どもSUN SUNプロジェクトでの学生インターン導入による寄付の営業
- ・F B ボランティアの自治的運営のしくみの確立
- ・困窮者の相談支援ボランティアの育成、研修生の導入
- ・人事・業務評価システム稼働による職員の能力向上

(事業)

- ・地区円卓会議などの実施による、子どもSUN SUNプロジェクトの推進とファンドレイジング
- ・「みんな崖っぶちラジオ」と「ボラ情報」の連動による広報の確立とファンドレイジング

## 2. 事業概要

### A. 【ボランティアセンター】

#### (1) ボランティア・コーディネーション事業 (Vの相談・助言事業)

##### ① 総合相談支援センターの運営

■内容／専従職員により関係機関、NPO、ボランティアの需給調整を行うことで個人からのSOSへの対応を行い、社会課題の解決を図る。特に個人からのSOSの解決について、総合相談支援センターを設け、あらゆる生活上の困難についてワンストップで相談支援する拠点を開設する。

また、「相談支援ボランティア」の育成を行う。特に休眠社会福祉士等によびかけ資格取得者の活躍の場を作る。また、社会福祉士養成校（大学・専門学校）等の実習生を受け入れ、既存の社会福祉分野では解決していない社会問題への啓発を行う。

■活動日／毎日

■従事者／職員2人、ボランティア複数名

##### ② コールセンター栃木の運営支援

■内容／社会的包摂支援センターによる「寄り添いホットライン」に協力するためコールセンター栃木の運営支援を行う。電話相談員の確保、ワンストップ支援を行うための同行支援のコーディネートを側面支援する。（電話相談は月曜から土曜日の10時から22時、同行支援は随時）

■活動日／随時

■従事者／職員1人（電話相談は相談員10人、事務員3人）。

##### ③ 無料職業紹介所の運営

■内容／生活困窮者の自立支援のためには中間的就労もふくめた生活困窮者の出口が必要である。栃木県若年者就労支援機構（しごとや）と連携して無料職業紹介所の運営を行う。退職者の採用を選定に事業の再構築を図る。

■活動日／火～金、10-16時

■従事者／職員2人、役員1人

##### ④ 「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難者への相談・交流・説明会事業」

■内容／とちぎ暮らし応援会の後継事業として、福島県か2つの事業を受託し、避難者宅への訪問相談支援と本会事務所で相談所を開設する。

■活動日／火～金、10-18時

■従事者／職員3人

#### (2) 講師派遣事業 (Vの啓発・普及事業)

■内容／とちぎVネットに登録した講師または事務局員を派遣する。登録講師の場合は講演料を寄付とする。

■活動日／随時

■従事者／職員2人、役員1人、ボランティア2人

## B. 【フードバンク宇都宮】

### (1) フードバンク事業 (生活困窮者の支援)

フードバンク (FB) は徐々に認知度は高まっており「FB という名前を聞いたことがある」人も増えてきた。今後の課題はFBの具体的を知ってもらい、活動に参加してもらうことある。

地方議会でもFBが取り上げられ、行政も貧困問題やゴミ問題への取り組みとして試験的にFBとの連携や協働を行っている。宇都宮市・ごみ減量課とも前期からフードドライブを実施しだした。今期はこれをさらに押し進めた新しい展開を模索する。また、宇都宮市の民生・児童委員にも関係性を深め、連携が取れる関係性を広める。子どもSUN SUNプロジェクトとの連動や、食の廃棄削減という切り口でのSDGsの視野に入れて活動する。

県内のFBの拠点との連携が不十分であったが、米、乾燥米、カップ麺、うどん等に品目を絞り連携 (流通) することを模索する。

#### ①米の受贈、寄贈量の拡大

■内容/FB開設後は、料理ができない单身男性者への支援数が多く米の需要は比較的少く缶詰やレトルト、カップ麺等の需要が多かった。しかし、困窮している家族のある家庭においては米は重要な食品であり、主食としての米の役割が非常に高いことは間違いない。農家や一般家庭において、食べきれなかった古米を中心に募集をかけ米を大々的に集める。

■活動日/毎日

■従事者/職員1人、ボランティア複数名

#### ②フードドライブ(FD)の実施/「きずなBOX」の設置

■内容/FDは通年実施しているが、日常に行く場所に「きずなボックス」(食品収集箱)があるとキャンペーンやネットでの宣伝よりも効果がある。公共性の高い施設を選択しきずなボックスを設置し、周知効果と食品収集を行っていく。また、出張FDはとちぎコープの大型店舗、宇都宮市環境部ごみ減量課との協働で行う。

■活動日/毎日

■従事者/職員1人、ボランティア複数名

#### ③FB食品の利用/奨学米プロジェクト

■内容/「学齢期にある低所得母子家庭等への奨学米支援」プロジェクト(奨学米プロジェクト)を実施する。学齢期の子供がいる母子家庭等の家計を支援する目的で毎月米を寄贈する事業で、年間3~7万円分の生活費を応援をする。この事業は子どもSUN SUNプロジェクトのFB部門の核心事業であり、困窮家庭への発見、アクセス、米の収集などを含めて一番力を入れる事情とする。

■活動日/毎日

■従事者/職員2人、ボランティア複数名

#### ④県内のネットワークの活性化

■内容/現状は、ボランティアが確保できず、顔は見えているが連携がとれていない。現状は自己完結型のFBであるが、連携すると相乗効果があり活性化することは間違いない。顔の見える県域会議を年2回(上

半期、下半期) に実施し、連携を模索する。

■活動日/適時

■従事者/職員 2 人、ボランティア複数名、各支部など

## ⑤広報

■内容/F Bの認知度を高めるために、他の組織と協働して広報する。宇都宮市役所・ごみ減量課等を通じてSDG sの視点での広報を企業等に向けて発信する。また、民生委員・児童委員の地域協議会を通じて、きずなボックスや困窮者への情報源としてF B協力を呼びかける。

■活動日/適時

■従事者/職員 2 人

## ⑥人材育成 (相談ボランティア養成講座)

■内容/F Bを運営にはボランティアの確保が欠かせない。市内の拠点拡大に伴いボランティアの人数確保が課題となる。基本的なF Bの運営は現有のボランティアによる人材育成が可能であるが、相談機能を有する当会のF Bについては相談を受けることができるボランティアが必要となる。相談能力を備えたボランティアを育成し配置するために、相談ボランティア養成講座を適時実施する。

■活動日/適時

■従事者/職員 1～2 人、ボランティア複数名

## ⑦各拠点ごとの事業

<フードバンク宇都宮>

■内容/米の受寄贈を拡大するために、当会はもちろん他機関と(行政、社協、民児協など) 広報活動や食品収集を展開する。子どもSUN SUNプロジェクトとの連動で拠点拡大の組織づくりのために、設備と人員育成を中心に展開する。

■活動日/毎日

■従事者/職員 1～2 人、ボランティア十数名

<フードバンク大田原>

■内容/栃木県北域を活動範囲として、行政、社協などと連携して、F B活動を実施する。奨学米プロジェクト、フードドライブの実施

■活動日/毎日

■従事者/ボランティア 3～4 名程度

<フードバンク日光>

■内容/F Bに関わる人材が増えてきたので、今期は人材活用と日光での活動展開を模索する。基本的なF B活動と、多くの人が日光の拠点に集まるしかけを実施する。

■活動日/週 3 日程度

■従事者/ボランティア 5 名程度

<フードバンク那須烏山>

■内容/社会福祉協議会、行政の困窮者窓口と連携して食品支援をする。その他、適時F B活動を行う。

■活動日/適時

■従事者/ボランティア 3 名程度

## (2)ファンドレイジングの強化 (生活困窮者の支援)

### ①チャリティウォーク 56.7 の実施 (10 月 6・7 日)

■内容／第6回チャリティウォーク 56.7 を10/6～10/7 に実施する。宇都宮と矢板から出発するコースを設け、昨年同様に参加者、寄付者の拡大を行い実施する。

■活動日／6月から10月

■従事者／職員1人、ボランティア70人

## ②サンタ de ランへの参加

■内容／第3回サンタ de ランに参加する。若い人中心にイベントを盛り上げる力のある人を中心に展開できるように体制をつくる。

■活動日／6月から10月

■従事者／職員1人、ボランティア30人

## ③会員拡大

■内容／新たなFB配送先（福祉施設）を探し関係性を深め団体会員の拡大を図る。

■活動日／随時

■従事者／職員1人、ボランティア複数名

# C. 【災害ボランティア・オールとちぎ】

## (1)救援・復興支援事業（災害救援事業）

■内容／国内災害発生時にボランティアによる救援活動や募金活動（後方支援）を行う。

■活動日／随時（災害発生時数日から数ヶ月）。

■従事者／職員2人、ボランティア15人～500人

## (2) 東日本大震災の復興支援（災害救援事業）

### ①まけないぞうプロジェクト

■内容／東日本大震災の被災者の生きがいつくり、仕事作りとして「まけないぞう」プロジェクトを実施する。時間経過と共に販売数も減少し作り手の状況も変化しているが、震災を忘れないため制作数を少なくしながらも活動は継続する。職員とボランティアによる運営とする。

■従事者／職員1人、ボランティア1人

### ②復興わかめの販売

■内容／東日本大震災の被災地で作った「わかめ」を「まけないぞう」とともに販売し、一般市民に被災地とのつながりを意識してもらうとともに、災害救援以外での新たな関わり方を作る。

■従事者/理事1人、ボランティア1人

## (4) 「とちぎVネット災害救援ボランティア基金」(NPOの活動資金の援助事業)

■内容／主に国内で発生した自然災害などに際し、緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資

金を援助（「基金運用規定」による）するとともに、災害ボランティアオールとちぎの活動費、事業費、人件費としても使用する。

■活動日／主に災害時

■会計区分／とちぎVネット緊急救援ボランティア基金特別会計

■従事者／常任理事会、常勤職員1人

## D. 【NPO活動推進センター】

### (1)NPOに関する相談・協働事業（NPOの育成事業）

■内容／認定NPO法人など“望まれるNPO”をめざす市民活動団体に対し、ファンドレイジング、講座、事業運営の相談をするなど、ともに切磋琢磨するための事業を行う。

■実施日／随時

■従事者／職員1人

#### ①NPOの研修

■内容／ファンドレイジング等の講座を行う。委託事業を念頭に実施する。

#### ②NPOに対する備品・機器貸出

■内容／輪転機・紙折り機等の貸出もおこないNPOへの便宜を図る。事務所貸出は申出があった団体に対し協議のうえ実施する。

■経費／事務所貸出は月毎に徴収し、水道光熱費等の共益費、コピー機、印刷機等の使用料に充てる。印刷機など備品については用紙・インク代の実費負担。

#### ③コーヒーサロン

■内容／県内のNPO、ボランティアのリーダーを招き、顔の見えるネットワーク作りと、他分野の団体の活動紹介をすることで、県内の市民活動の活動推進を図る。年4回程度実施。2時間程度の講義。寛いだ雰囲気でも兼ねて行う。話の内容は「月刊ボランティア情報」紙上に掲載する。また、県北支部で県北コーヒーサロンを実施する。定期的な開催をめざし、定例化・自主運営に努める。

### (2)ボランティアの啓発・普及事業（Vの啓発・普及事業）

情報誌・ラジオ・ブログが連動した広報体制を構築し、会員・寄付の増加に努める。

#### ①『とちぎVネット・ボランティア情報』の発行

■内容／ボランティア活動・市民活動の啓発、普及、推進や、ボランティアコーディネートのため『月刊ボランティア情報』を発行する。ボランティア・職員による取材、執筆を行う。今年は紙媒体の他のメディアを持つことも検討する。また新聞切り抜き隊による新聞の要約情報を作成しボラ情報紙上に掲載する。配付先は会員、会員以外の県内外の関係機関。

■発行日／奇数月、年間6回発行、A4判、16ページ外側8Pはカラー。切りぬきは毎週水曜日

■従事者／職員2人、ボランティア2人



## ②「みんな崖っぷちラジオ」の放送

■内容／コミュニティFM「ミヤラジ」で、ボランティア活動・市民活動の啓発・普及と、困窮者の暮らしと制度の課題などを話題にしたラジオ番組を毎週放送する。ボランティア情報やSNSとの連動を意識し、寄付・会員の増加など独立採算化の努力をする。

■放送日／毎週火曜日、19時から1時間

■従事者／職員3人、■従事者／職員3人、学生アルバイト3人

## (3)震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営 (Vの連絡調整事業)

■内容／災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク (略称=震つな)」へ加盟し、役員・職員を同ネットワークの顧問として業務にあたらせる。

■従事者／職員1人、ボランティア(運営委員)1人、理事1人

## (4)「ボランティア推進団体会議(民ボラ)」の運営 (Vの連絡調整事業)

■内容／全国の民間の中間支援団体の「自主研修会」の実行委員会として本会職員を派遣して実施する。今年6月に栃木で実施する。本会役職員の必須の研修会を位置づける。

■日時／2018年6月30日-7月1日(1泊2日) ■場所／栃木県宇都宮市 ■従事者／職員1人

## E.【とちぎコミュニティ基金】

非常勤職員1人を雇用し「とちぎコミュニティ基金」の運営強化を行う。「子どもの貧困撃退円卓会議」の波及と深掘りを行う。大田原、日光(予定)など他自治体への波及、および宇都宮市内25地区(中学校の範囲)の調査をおこなう。また担い手の育成として無料学習支援ボランティアを学生を中心に大量に養成する。寄付の営業も学生インターンにより実施する。年末の「サンタ de ラン」を中心に寄付つき商品の企画など、新しい取り組みを加えたファンドレイジングを行う。またとちぎコミュニティ基金のブランド化を行い、SDGsなどのあらたなテーマによる「地域課題の解決」へのアプローチをしていく。

冠基金「たかはら子ども未来基金」の運営を学生インターン部門と人材育成プログラムの運営を柱に実施する。

■開催日／毎日 ■従事者／職員2人

## (1)メイン基金の運営 (NPOの活動資金の援助事業)

### ①子どもの貧困撃退♡円卓会議(宇都宮)

■内容／地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、調査では必要量と支援方法、費用の積算をし、そのごにファンドレイジングと事業の立ち上げをおこなう。数年間の継続プロジェクト(子どもSUN SUNプロジェクト)として運営する。今期は宇都宮市内25地区(中学校の範囲)のうち3地区(候補:清原、宝木、雀宮)をモデルに地区内の子どもの貧困調査を行う。また担い手の育成として学生を中心に無料学習支援ボランティアを大量に養成する。寄付の営業も学生インターンと実行委員のプロボノにより実施する。

今期はサンタ de ランを中心にメイン基金を稼働し、県内の中間支援団体や認定NPO法人等との業務提携によって実施する。

■備考／今年度は助成は実施しない

## ②他地区の円卓会議(大田原・日光)の支援

■内容／「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、調査では必要量と支援方法、費用の積算をし、そのごにファンドレイジングと事業の立ち上げをおこなう。今期は宇都宮に続いて、大田原、日光で子どもの貧困撃退の円卓会議を行うが、会議の支援とファンドレイジング、助成金配分を行う。

## (2)冠基金の運営 (NPOの育成事業)

### ①花王・ハートポケット倶楽部 (地域助成)

■内容／花王㈱の同助成金を活用し、NPOへ助成金を贈る事業とする。「とちぎコミュニティ基金」冠ファンドとして実施する。

### ②とちぎゆめ基金

■内容／ゆめ基金を活用し「障害者や生きづらさを抱える人の職業自立を図る事業」に助成する。市民が市民活動を支えることを具現化するため、NPOを助成金選考委員に加える等の方策を検討する。「とちぎコミュニティ基金」として実施する。

### ③たかはら子ども未来基金

■内容／篤志家からの年間 100 万円の助成金を活用し、矢板・塩谷地区 (県北地域) の子育て支援・子どもの貧困関係のNPOへ助成金を贈る事業とする。6月の募集開始し年内に助成を行う。

## F. 【若者支援】

### (1)若者未来基金の運営 (若年無業者、障害者の就労支援および自立支援事業)

■内容／若者サポステ事業を栃木県若年者支援機構に移管したため、本会内部に設置されていた基金の枠組みを使って、同会が行う事業に対し活動資金を提供する。学習支援などでの

■従事者／役員1人、ボランティア (運営委員) 1人

## G. 【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

### 【県北事務所の位置づけ】

とちぎボランティアネットワークのミッション実現を加速させるため、とちぎボランティアネットワークの拠点を宇都宮市だけでなく、県北にも設置し、より身近に人や団体が集まり活動できるようにする。

### 【事業概要】

## (1)生活困窮者の支援

### ①エリア内でのフードバンク事業の実施、促進

フードバンク大田原を中心に、県北地域のFB活動の日常化、発展をはかる。支援対象者及び食品提供者を増やし役割を大きくしていく。事務所を活用しての相談活動もできるようにしていく。

■目標：支援件数 400 件 受け入れ食糧 4t

### ②こども食堂の運営 (2カ所)

トコトコ大田原でのキッチンとまと、県北事務所でのやまのてこども食堂を継続運営する。広報強化による、子どもの利用者拡大と、運営を円滑にするボランティアの確保に力を入れる。

■目標：利用者数のべ 900 人、ボランティア数のべ 250 人

### ③やまのて学習ルームの運営

やまのてこども食堂と連動して、毎週金曜日の夕方に学習支援を行う。ボランティアによる学習のサポートと、子どもたちへの放課後の居場所の提供を行う。

■目標：利用者数のべ 250 人 ボランティア数のべ：140 人

## (2)子どもの貧困撃退円卓会議（大田原）の実施

大田原市での子どもの貧困の撃退を目指し、様々な人、団体が一堂に会し、調査、検討、アクション及び、それを支える寄付を集めていく。それを進めるための円卓会議を運営する。

■詳細は次ページ

## (3)会員活動の実施（会員会議、活動計画、活動サポート）

県北在住の会員の自発的な活動や新しいチャレンジをサポートする。また、会員同士の情報交換やつながり強化の機会をつくる。県北会員の集いも年2回開催する。

■目標：増加会員数 50 人、会員の自主活動が1つ誕生

## (4)県北NPOのネットワーク構築、実質的プラットフォーム形成、NPO向け研修の実施

地域課題解決を目指すNPO 総合プラットフォームを形成し、分野ごとの課題対応を行いながら、NPO 同士の連携強化、活動の質の向上をはかる。

■目標：県北地区のNPO 勉強会（コーヒーサロン）の開催。ブログやホームページの更新頻度を高め、NPOの活動を発信していく。

(別紙：「子どもの貧困撃退円卓会議・大田原」の企画書)

人口 10 万人以下の地方都市のモデルに。地域の総力で子どもの貧困を撃退する、地域円卓会議の実施（大田原市）

<p><b>【事業概要】</b>  こどもの貧困問題の解決に向けては、NPO や支援機関が努力をするだけでなく、その地域で暮らす人々が子どもを支える「地域の力」が必要である。子ども達のために何か自分もしたいと考えている人も多いが、具体的な機会を見いだせないでいる。こうした関心のある人、企業と、こどもの貧困撃退円卓会議を栃木県北地域（大田原市）で開催し、地域の力を集め、具体的なこどもの貧困撃退のためのアクションにつなげる。</p> <p><b>【目的】</b>  こどもの貧困撃退地域円卓会議を通じて、大田原市内での①こども食堂、②学習支援活動、③こどもの居場所を増やす。そのためのボランティアや資金も地域で集められる力をつける。この円卓会議を成功に導くためには、①プロボノの活躍、②ステークホルダー間の連携が重要で、なかでもプロボノの発掘・養成が喫緊の課題である。また連携の促進では地域(自治会長・民生委員等)の協力を深めていくことが重要である。本事業では、円卓会議を主たるプラットフォーム都市、プロボノの育成と、地域との連携の具体化を目指す。また、円卓会議として「みんなで取り組み・達成した経験」を積むことで、子どもの貧困に「気づき、対策できる」地域・社会づくりをすることを目的とする。</p> <p><b>【数値目標】</b>  円卓会議参加者数：30 人団体  円卓会議後に生まれるこども支援活動（こども食堂2カ所、学習支援活動2カ所、居場所2カ所）  新たに生まれた活動を利用するこどもの数 80 人（こども食堂20人×2カ所、学習支援10人×2カ所、居場所10人×2カ所）</p> <p><b>【期待される成果】</b>  ○こどもを支える地域づくりの促進  こどものために行動する人たちが地域の中に増え、つながり、それが、一人ひとりを大切にこどもを育てる地域づくりにつながる。  ○持続可能な支援活動の仕組みの確立  円卓会議では、こどもの貧困対策のためのファンドレイズも検討テーマの一つとする。寄付集めの機会や方法を増やすことで子どもの支援に必要な資金を地域の中で毎年集められるようになり、中長期的に事業計画をつくれるようにする。</p>	<p><b>【事業計画】</b>  地域住民、企業、学校、NPO、自治会など地域の様々なステークホルダーと力を合わせ、子どもの貧困問題の解決に取り組めるプラットフォームを形成する。問題解決のためのロードマップと必要な資源も円卓会議を通じて具体的にまとめていく。</p> <p>①地域における子どもの貧困問題に対する実態調査  円卓会議で具体的に地域の実情を踏まえ、アクションプランを作成できるように、大田原市における子どもの貧困の実態調査を行う。  ◆時期：2018年4月～7月  ◆場所：大田原市内  ◆内容：大田原市における子供の貧困に関する実態調査を行う。統計的なものだけでなく、問題の本質も把握できるような質的調査も行う。</p> <p>②こどもの貧困撃退地域円卓会議の実施と、報告会の開催  ◆時期：2018年4月～12月  ◆場所：大田原市内  ◆内容：様々なステークホルダーで集まり、大田原市の子供の貧困対策のために必要なことについて検討し、具体化する。会議を通じて地域の実情についての理解を深めながら、こどもの貧困に対する関心と支援の輪も広げていく。円卓会議で取り組んだ調査結果や、アクションプランを伝える中間報告会を、8月、報告会を12月に開催する。</p> <p>③ファンドレイザーの養成  ◆時期：2018年9月～11月に2回開催  ◆場所：大田原市内  ◆内容：プロボノ・ファンドレイザー養成講座を行う。子どもの貧困問題の現状から、プロボノの意義や可能性について学ぶ機会をつくり、その人の職能をいかして、こどもの貧困撃退を進めていく。  ◆対象：子供の貧困に関心のある社会人（営業、マーケティング、デザイン、教育関係等を仕事にする人等）</p> <p>円卓会議後のアクション  ◆時期：2019年1月～3月 ◆場所：大田原市内  ◆内容：円卓会議で取りまとめた計画に基づきアクションプランを実行していく。こども食堂や学習支援活動を増やすための個別団体支援や、活動を支えるためのファンドレイズ活動を具体的にを行う。</p>
--	--

### 3. 事業概要

#### 【その他の事業】

今年実施しない。(出版・編集事業、書籍販売事業、物品販売事業)

### 4. 財政・組織運営

#### (1) 財政運営

県北支部の活動とともに会員が未開拓な県北支部での会員の増加に力をいれる。また、とちぎコミュニティ基金でのファンドレイジングにより、寄付額600万円の増加を目標とする。2年後までに専従職員1人体制を作るようにする。

#### ① 会員

- 県北部支部での会員拡大…支部として、支持100人、賛助30人、団体20を増加目標とする。
- フードバンク関係者への団体会員の拡大…みんながけっぷちゼミの機会に個人会員、チャリティウォークなどの機会に施設等への団体会員の営業を行う。

## ②寄付

- ・とちぎコミュニティ基金での寄付の拡大…子供の貧困撃退の円卓会議で従来からの寄付イベント「サンタでdeラン&ウォーク」の他に、クラウドファンディング、子どもSUN SUNメイト(マンスリー寄付)、寄付つき商品の開発、子どもSUN SUNプロジェクトの発起人寄付などの多様なファンドレイジングを行う。
- ・「チャリティウォーク56.7」でFBの宣伝と寄付集めを行う。今年度は目標金額を300万円とし、新規の支援者を募る。
- ・11月から2月末にかけて「2018年度・とちぎVネット年末冬募金」を行う。

## ③事業

- ・福島県からの委託事業を実施する。また、災害の復興支援での「わかめ」と「まけないぞう」の販売を行う。

## (2)組織運営

本部・県北支部の運営強化を行う。本部では次期の事務局体制を見越して、事務局次長3人の集団指導体制とし、数年後の若手スタッフへの移行のための助走期間とする。組織の再編などの議論は、長期計画、中期計画策定の過程で検討する。

県北支部では常勤職員と中核ボランティアにより運営する。フードバンクなどの非営利事業のほか、入会、寄付の受け付けなど組織運営業務を行う。

### ①会員総会

「会員が集まる会」と位置付け、正会員の他の賛助会員にも参加を呼びかける。「予算や事業の審議は総会の一部」とし、ゲストを招いた講演会や会員同士の交流会を開催する。

### ②理事会（役員会）

定期の理事会を年3回程度行う。常任理事会は随時召集する。また、年度末に事務局職員業務インタビューを実施する。理事同士・運営委員・職員のコミュニケーションを活発にする。

### ③運営委員会

「運営委員会」を県北・本部でそれぞれ毎月開催する。本部の運営委員は事実上いないので運営委員会の代行として月1回の職員会議（第2火曜）が代行している。月ごとの事業の報告、調整、意思決定を行う。ボラ情報・ラジオの編集会議も行う。

### ④職員会議

職員が増加し拠点が増えたので、月2回（第2・4火曜10時～）職員会議を開催する。このうち第2火曜日は運営委員会とし、月ごとの事業・課題について意思決定を行う。

### ⑤委員会・チームの会議

- 新聞切り抜き隊…毎週火曜日14時から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム。

- Vネットの集い、支援者の集い…県北、県央、県南の3か所で実施する。会員間の交流が行えるようにする。
- フードバンク会議…毎週木曜日 15時～